戦略的イノベーション創造プログラム
(SIP)
2024年度
研究開発実施報告書

SIP 課題名「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する

プラットフォームの構築」

研究開発テーマ名「デジタル・シティズンシップ・シティ：

公共的対話のための学校」

研究開発期間：　2024年4月1日　～　2025年3月31日

研究開発責任者	氏名	草原　和博
	所属機関	国立大学法人　広島大学
	部署	人間社会科学研究科
	役職	教授

研究開発成果等の概要

実績（１）に示すように，全ての目標値を達成することができた。一般市民の授業参加者，不登校傾向の児童生徒の参加者，そして東広島市以外の児童生徒の参加者が増加したことは，**社会的受容度の広がりと事業の広域展開**をあらわす成果である。

実績（２）に示すように，計 20 回の実証授業を実施できた。東広島市内の学校を結びつつ，さらに北海道や鹿児島の学校や外国とつないで遠隔の合同授業を実施できた。民間事業者（広島国際空港株式会社）と連携した授業が実施できたのは，**将来の事業化**につながる成果である。

実績（３）に示すように，公共的対話の意義を実感したという子どもの声を伝える報道があった。本取組が，先生方にとって新しい授業を学ぶ研修の場になっていること，また教員志望学生にとってもインターンシップの場になっていることが確認できた。これらは，**人材育成の進展**をあらわす成果である。

実績（４）に示すように，不登校児童生徒を対象にした授業配信（チャンネル２）を開始し，多様な学習者の包摂が進んだ，また離れた教室の対話を自動要約・分析する AI 学習支援システムと，遠隔授業への参加希望校どうしの連携を容易にするマッチングアプリが完成するなど**技術的な進展**が進んだ。

実績（５）に示すように，2025 年度の実証授業の計画が策定できた。東広島市以外の自治体をホスト校とする「全国自立拠点型 DCC」授業や，（資料には掲載していないが）他の SIP チームの研究開発の成果と ELSI の課題を取り上げた高校生向け授業を開発するなど，**カリキュラム開発と課題間連携が進展**する予定である。

2024年度の実績（Ⅰ）ー基礎データをもとにー

所掌ユニット	指標	SIP目標値（2024年度）	年度実績（2024年度）	SIP事業実績（2023.10-2025.3）
管理・運営	SIP運営会議	10回	11回	17回
	SIP連絡協議会	2回	2回	3回
	学会等発表	2回	5回	4回＋2024年度
	シンポジウム	1回	1回（3/20実施予定）	2回（3/20実施予定）
	シンポジウム参加者数	―	3/20実施予定	2023年度60名
	他自治体ネットワーク構築支援 参加教員数	50名	56名	56名
	ホームページPV	6,000	27,387（新旧HP合算	30,677
	マッチングアプリ	試作品完成	試作品完成	―
	論文発表	―	4回	6回
	プレス報道	―	9回	15回
カリキュラム開発	開発単元数（実証回数）	―	14回	20回
	小学校社会科	8単元	8単元	―
	中学校社会科	3単元	3単元	―
	小学校総合的な学習の時間	3単元	3単元	―
	外国での授業		1単元	1単元
	児童生徒の評価	―		
	授業満足度	―	83.46%	83.56%
	他校の子どもとの対話に意義	50%	75.19%	75.53%
	地域のおとなとの対話に意義	50%	86.45%	89.25%
	公共的課題の解決意欲（5件法）	―	4.078	4.122
	教師の評価	―		
	対象者数	80名	99名（予定）	―
	デジタル技術の習得	40%	調査中	―
	地域理解	40%	調査中	―
	授業づくりの技術向上	40%	調査中	―
	教育観の省察・実践力	40%	調査中	―

所掌ユニット	指標	SIP目標値（2024年度）	年度実績（2024年度）	SIP事業実績（2023.10-2025.3）
制度・意識開発	参加校数（延べ）	100校	106校	144校
	東広島市 参加率	90%	93.8%	100%
	市外 参加校（国内自治体）	5校（5自治体）	29校（26自治体）	31校（17自治体）
	海外 参加校（国）	―	3校（1か国）	3校（1か国）
	参加児童生徒数（延べ）	4,000名	4,086名	5,960名
	東広島市	―	3,435名	5,253名
	市外	―	692名	748名
	海外		30名	30名
	不登校児童生徒	10名	146名	146名
	ステークホルダー肯定的評価	3名	3名以上（首長、教育長、市議会議員など）	
	就労者の授業登場（延べ）	15名	61名	83名
	就労者の延べ種類（職業）	10パタン	23パタン	32パタン
	行政・議会		27名（9パタン）	29名
	教育（教員・学生など）		6名（5パタン）	7名
	企業・自営		12名（6パタン）	21名
	学術・研究		3名（3パタン）	2名
	NPO・その他		13名（6パタン）	21名
	学生支援者数		254名	385名
	他自治体等からの視察・研修受入	―	430名	508名
	SIP関係		176名	227名
	一般（教育関係者等）		119名	145名
	学生		135名	136名
AI技術開発	AI学習支援プログラム 試行回数	8回	17回	22回
	国内	―	15回	20回
	海外（言語）	―	2回（2言語）	2回
	実装機能	遠隔教室の子どもの対話を要約できる。意見・立場を分類できる。	遠隔教室の子どもの対話を要約できる。意見・立場を分類できる。	デモ機は，対話が認識できる。対話をテキスト化し，校正・要約できる。

注目するべき数値

授業満足度 83.5%，参加児童生徒数 4,086名，参加校数（東広島市外） 106校（29校），学生支援者数 254名，SSRを含む不登校児童生徒数146名

2024年度の実績（2）ー実証授業を中心にー

	2024年度	教科・領域	学年	授業テーマ（学年）	公共的課題	参加者数（左：東広島市，市外，教室外）		
1	5月14日	社会科	中1	【地理的見方・考え方】地理的な見方・考え方とは何か？	-	102		-
2	5月15日	社会科	小5	【国土の気候と地形の特色】土地でできる作物を決めるのは，自然の力？人の力？	土地利用	359	46（北海道，鹿児島県）	-
3	6月12日	社会科	小3	【私たちの町と市】私たちの町の「とっておきの写真」をとって発表しよう！	地域表象	428		5
4	6月19日	総合		【ことばと学級づくり】やさしい日本語の「やさしさ」とは？	ことば・共生	41		3
5	7月3日	社会科	小6	【国づくりへの歩み】大きなお墓，この価値を説明する鑑定書をつくろう！	歴史認識	386	44（北海道，鹿児島県）	9
6	7月9日	社会科	中2	【歴史的見方・考え方】歴史的な見方・考え方とは何か？	歴史認識	73		8
7	夏休み	自由研究		地域課題探究プロジェクト	公共交通・多文化共生	4		-
8	9月11日	社会科	小4	【自然災害からくらしを守る】防災訓練だけで備えは十分か！？	災害・防災	344	97（北海道，鹿児島県，高知県，廿日市市）	6
9	10月22日	社会科	中3	【個人の尊重と日本国憲法】デジタル化した社会での新しい権利とは？	情報・権利	96		9
10	11月13日	社会科		【地域の偉人】なぜわたしたちは「金炳魯」先生を学ぶのか？	記憶継承	-	30（韓国）	-
11	11月20日	総合		【ことばとグローバル化】「外国の言葉が上手」とはどういうこと？	ことば・共生	210	18（広島市）	31
12	12月11日	社会科	小3	【事故や事件からまちを守る】交番や駐在所の数は，このままでよいか！？	安全・治安	501	3（府中市）	18
13	12月12日	社会科	小4	【県内の特色ある地域の様子①】北海道の市町，みりょくさがし隊	-	-	182（北海道）	-
14	12月19日	総合		【総合的な学習の時間】太陽光パネルは地域をこわすもの？ すくうもの？	エネルギー・環境	-	52（北海道）	-
15	1月15日	社会科	小6	【日本とつながりの深い国々】外国を理解するための視点を学び，韓国をより深く理解しよう！	相互理解	94	18（広島市，韓国）	18
16	1月29日	総合		【ことばとコミュニティ】みんなの言葉は，あなたの言葉？ あなたの言葉も，みんなの言葉？	ことば・共生	52	53（鹿児島県，広島市）	10
17	2月12日	社会科	小4	【国際交流に取り組むまち】外国人市民にも住みよいまちをつくる！！	国際化・まちづくり	371	12（広島市）	17
18	2月21日	社会科	小4	【県内の特色ある地域の様子②】北海道の市町，みりょくさがし隊	国際化・まちづくり	-	138（北海道）	-
19	3月3日	広島空港連携		空港とはどんなところ？ 空港はどのように変わるべき？	開発・保全	41	29（北海道）	-
20	3月5日	社会科	小5	【環境をともに守る】水俣病は昔（むかし）の話か？ 他所事（よそごと）か？	環境	116		12

今年度の特質

1. 外国ルーツの子どもが多い地域事情を受けて，多文化共生をテーマとする授業を3回シリーズで実施
2. 小3から中3まで一貫して実施。学習指導要領の小学校社会科の単元の 90%カバー（モデル化）
3. 不登校傾向の児童・生徒に加えて，市民・保護者も授業に受け入れ。いっしょに学ぶ

→ 4,000名を超える参加者

2024年度の実績（3）ープレス報道・広報等からー

№2843 教育ルネサンス 遠隔教育 2

大学と連携 多数校結ぶ

「きょうは、たくさんの友達と一緒に勉強していきますよ」「よろしくお願いします！」

11月中旬、広島県の東広島市立東西条小学校。5年3組の教室前方に座る広島大学の草原和博教授(54)と南浦涼介准教授(45)がカメラに呼び掛けると、オンラインでつながった市内外五つの小学校の児童ら計約230人が一斉に大きな声であいさつした。

■「多文化共生」考える

このオンライン授業は、広島大と東広島市が協力して実施している。この日のテーマは「多文化共生」だ。地域で生活する外国人が増える中、日本語以外の言語でコミュニケーションを行うことへの苦手意識を和らげ、共生社会への理解を深めるために企画された。

授業では、進行校の草原教授らが、参加校の児童に順番に話を聞いた。

外国にルーツがある児童が6割を占めている広島市立基町小学校からは、中国から来日したばかりの児童が中継に登場。友人に支えられながら、放送委員として校内放送に取り組む様子を報告した。

子どもたちはその後、英語を指導する外国人のALT（外国語指導助手）が「日本人に日本語で話しかけるときは緊張する」と打ち明ける動画を視聴。教室での話し合いや全体での意見発表を重ね、「外国語を話すときは、たどたどしくても伝えたい気持ちがあれば大丈夫」「聞くときは、相手が勇気を出せるように聞き

教室前方に座り、オンラインで授業を行う広島大学の草原教授（右奥）と南浦准教授（11月中旬、広島県東広島市で）

●2024年6月12日 NHKニュース「お好みワイドひろしま」
東広島 児童が地域の特色をOL学習
「地元についてみんなで考えるのが楽しく，知らない人とも一緒に勉強できてうれしかった。」（河内小3年生児童）

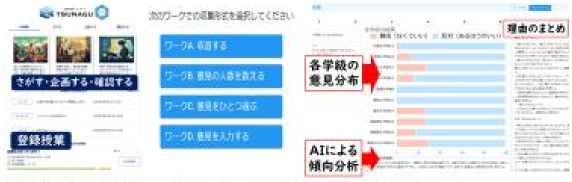
●2023年9月23日 南日本新聞 8面
噴火，土石流，津波…大災害の経験，どう生かしてる？全国14校の児童が日頃の「備え」発表，桜峰小はヘルメット登下校を紹介
「噴火以外にも大変な災害があると知った。現地に行って，砂防ダムや津波救命艇を見てみたい」（桜峰小3年生児童）

●2024年12月12日 読売新聞 朝刊12版 10頁
教育ルネサンス 遠隔教育2 大学と連携 多数校結ぶ
「大学の力を借りて，カリキュラム作りや最先端の情報通信技術を学ぶことができ，教員研修の場にもなっている。」（東西条小教諭）

●2024年12月13日 北海道新聞 15面
清明小 道内3小と遠隔授業 広島大，釧教大が取り組み
「違う地域の人の意見を聞けて面白かった」（清明小4年生児童）
「将来の授業にICTを生かせるよう，大学生の内に学んでおきたい」（北海道教育大学釧路校 学生スタッフ）

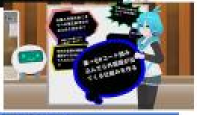
2024年度の実績（4）－特記するべき事項－

AI学習支援システム×遠隔授業マッチングアプリ「TSUNAGU」ベータ版のローンチ



遠隔授業の企画・募集検索がができるマッチングアプリ　複数教室の収音情報をAIが要約。要約結果を可視化・AIがさらに分析（多言語対応，グラフ化，拡大・ハイライト，学年に応じた漢字表記などの機能有）

不登校傾向の児童生徒の参加を受け入れ 広島県教育委員会SCHOOL“S”との連携，チャンネル2開設



チャンネル2（Ch2）
通常の広域交流オンライン学習（Ch1）を副音声で放送。参加児童生徒と，チャットでやり取りしながら授業を進行。2月期には，VR空間のアバターが授業を進行する**メタバース実証研究**を実施。

海外展開の進展（日本・韓国・米国での広域交流型オンライン学習）

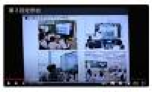
11月【韓国で授業実施】
「韓国全北特別自治道淳昌郡福興面の地域の偉人について学ぼう!」の広域交流型オンライン学習を実施。（3校，3学級，30名の児童生徒が参加。）

2月【韓国・米国の教員，研究者による日本での授業参加】
「外国人市民にも住みよいまちをつくる!!」の授業において，児童にカリフォルニアの取組を紹介してもらいました。

2月【米国と韓国によるアクションプランの発表】
米国チーム，韓国チームから，それぞれの地域の海外版広域交流型オンライン学習の実施計画が示されました。

市民・保護者の学習参加を受け入れ 市議会においても話題に

令和6年第3回9月定例会 会議録



〈市議会議員〉
「広域交流型オンライン学習」は，公共的対話を通じた教育機会の平等保障の実現に向けた取組で，COMMONプロジェクトに採択され，またデジタル・シティズンシップ・シティ，公共的対話のための学校プロジェクトとして，内閣府，戦略的イノベーション創造プログラムにも採択され，またGIGAスクール構想を推進する取組としても意義があります。

〈市長〉
COMMONプロジェクトの代表例である，「広域交流型オンライン学習」は，広島大学と共同で，地域学習用デジタルコンテンツや社会科副読本などを活用し，・・・（中略）こうした教育の機会均等や地域間の知識と地域資源の共有などのアプローチを通じて，人口減少や地域間格差といった問題を超えて，より均等で質の高い教育を目指しているところでございます。

2024年度の実績（5）－2025年度の方針決定－

教科・領域	学年	授業テーマ（学年）	公共的課題
社会	小4	わたしたちの町、〇〇〇－市町村のカントリーサインクイズ！ このサインに納得？－	地域表象
社会	小6	わたしたちの生活と政治－小学生も市民？ どうすれば社会は良くなる？－	権利主体
多文化共生	小3-6	外国の言葉が上手とは？－話し上手、聞き上手って、どんなひと？－	ことば・共生
社会	中2	地域調査の手法を学ぶ－「正しさ」だけが良い地図の条件か？－	地図表象
社会	小6	縄文のむらから古墳のくにへ－前方後円墳がないところに歴史はないのか？－	歴史認識
社会	小3	店ではたらく人－お店が少ない〇〇〇のお困りを解決するお店とは？－	買い物弱者
社会	小5	米づくりのさかんな地域－教科書に追加したい東広島市の農家とは？－	持続可能性
社会	中3	現代社会と私たち－デジタル化で社会はどう変わる？ わたしたちはどうする？－	情報・権利
自由研究	小3-6	『のんバス』『外国人市民』について考えよう	
社会	小4	自然災害からくらしを守る－防災訓練だけで、災害からわたしたちを守れるか？－	災害・防災
社会	中1	歴史の見方・考え方とは？－市の始まり、大事な出来事、盛衰を表す年表をつくろう！－	歴史認識
多文化共生	小3-6	やさしい日本語とは？－やさしい日本語の、本当の「やさしさ」とは？－	ことば・共生
社会	小5	半導体を作る工業－なぜわたしたちの市・国は、「半導体」推しなのか？－	産業振興
社会	小5	工業生産を支える運輸と貿易－小さな空港の、大きな役割とは？－	公共交通
社会	小3	事故や事件からくらしを守る－〇〇〇の交番や駐在所の場所はこのままでよいか？－	安全・治安
社会	小5	情報産業とわたしたちのくらし－情報は無料か？ 無料の情報は嬉しいか？－	メディア
社会	小6	新しい日本、平和な日本へ－平和な日本は誰のおかげ（犠牲）で作られた？－	記憶・平和
多文化共生	小3-6	わたしたちのことば―あなたの町には、いくつの言葉が必要だろう？―	ことば・共生
社会	小5	環境をまもるわたしたち－公害は過去の終わった話か、遠い他所の話か？－	環境
社会	小4	特色ある地いきと人々のくらし－〇〇〇の「国際都市」らしさを探せ！－	共生・人権

2025年度の研究開発のポイント
- ●小学校社会科の全17単元（学習指導要領の内容項目100%）の授業モデル開発と実証授業を達成。
- ●東広島市のホスト教室と全国の学校をつなぐ「東広島plus交流型DCC」に加えて，東広島市以外の自治体をホスト教室に設定し近隣校を結ぶ「全国自立拠点型DCC」単元を4回実施予定。
- ●不登校傾向児童生徒の参加と保護者の参観をさらに働きかける。各地の教育支援センターのネットワーク化を図る。
- ●TSUNAGU（AI学習支援システム×マッチングアプリ）ベータ版のローンチ。実証実験を本格開始する。
- ●「海外展開型DCC」単元を米国と韓国で実施。TSUNAGUを，遠隔授業支援の標準プラットフォーム化に成長させる。
- ●SIPの他課題の成果をELSIや包摂性の視点から紹介し議論する高校「総合的探究の時間」DCC単元を実施する。